

あとがき

日本環境教育学会創立大会は、1990年5月18日から20日にかけておこなわれた。あれから間もなく10年になろうとしている。

日本環境教育学会の設立準備会を発足して、創立大会は東京学芸大学の芸術館で行ったのである。創立大会に参加されたかたは、凡そ400名であった。初めて開く大会だけに参加者はどれだけ集まるか、大会要項をどれだけ印刷すればよいのか、甚だ不確実であった。私は大会実行委員長であったからである。

講演、シンポジウム、分科会発表、各種フォーラムなどが活発に展開され、それぞれのセッションで熱心に討議された。

創立大会は参加者の心あたったかい発言や、積極的に自然保護や環境保全の在り方を追究すべきであるなどの意見が出された。熱気ある学会創設であった。当初、学会参加者の殆どは、環境問題に対する危機意識に基づく21世紀への人間形成の新しい教育革新の方向を期待していたにちがいない。今は、どうであろうか。

参加者は「環境問題をなんとかしたい」という共通の願いを持っている多様な研究分野の方が集まった。自然保護、地球環境保全に直接参加している市民・行政等にかかわる方は三分の一、小・中・高校教師が三分の一、大学・研究所の研究者が三分の一、のように参加者が三等分されていることを知った。

その意味で、本学会の性格は、既成の学会と異なり、環境問題が多様であるように、学会員の要求水準も多様であり、学会誌に対する要望も多様なはずであり、それら多様性に応えるものにした、と願っている。

原著論文に、市民・行政レベルの環境保全活動理論や小・中・高等学校における人間形成に果たす環境教育の役割とその実践理論などをもっと多く掲載したい、と願っている。

今回の「環境教育」Vol.7 No.2は、幸いにもそうした多様な論文・報告が投稿されている。大

変よろこばしいことである。

学会の研究活動を内外から期待されているだけに、学会員の多くの方々の今後の研究活動、実践活動を大会に、学会誌に反映されることを心から願っている。

(佐島群已)

査読者一覧

安藤 聡彦	生野 晴美	榎本 博明
延藤 安弘	金森 正臣	川島 宗継
木谷 要治	木俣美樹男	小澤紀美子
近藤 正樹	佐島 群已	佐藤 治雄
佐野 寛	鈴木 紀雄	高山 進
中山 和彦	浜口 哲一	原子栄一郎
原田 泰	樋口 利彦	前 圭一
宮坂 広作	山田 卓三	吉田 一良
和田 武	渡辺 隆一	

編集委員会の判断で適任と思われる会員のかたに原稿の査読を依頼しています。場合によっては会員外のかたにも査読をお願いすることもあります。

訂正

『環境教育』13号 (Vol.7, No.1) の学界消息にある第8回大会記録に、以下が記載されていませんでした。慎んでお詫び申し上げます。

ポスター発表

東 陽一 (財団法人日本野鳥の会サンクチュアリセンター)

横浜自然観察の森における里山保全活動

投稿論文を受理した通知が届きましたら、印刷原稿にするためにテキストファイルに保存したフロッピーディスクとプリントアウトしたものを一部用意してください。